

10) 愛Deer∞

代表：置塩 豊

深刻なシカ被害対策として捕獲されたシカの有効活用を推進するために2016年から活動している。

主な活動は①有効活用の一環として鹿肉の普及のために手軽な鹿肉料理をイベント等で出店 ②家庭でも手軽にできる鹿肉料理教室の開催 ③シカの被害問題や有効活用のPR活動等を行っている。また④シカが生息しているあいな里山公園やしあわせの村、最近ではキーナの森周辺でシカを中心に自然観察会も実施している。

メンバーは現在11人で活動中。

課題は、①イベントでの出店に準備段階から労力が掛かり、出店の申し出に臨機応変の対応できないため、せっかくの機会を損失している。また②天候等の影響で中止時の損失も発生し対応に苦慮している。



11) 川づくり研究会

代表 野崎康夫

我々はカレッジのグループ学習で行った伊川の環境生きもの調査を1年で終わらせるべきでないと考え、調査を続けています。地味な活動ですが、網を持つと子供に返り何が獲れるか興味津々です。これまで見たことのない生きものに出会うと凶鑑と首っ引きで、生物多様性を実感しようと単調な流れに水制工を作り、ワンドの形成を試みているが大雨、台風で度々流され、新しい方法を模索中です。またアカミミガメの防除活動、有害外来種を駆除しています。



12) フードドライブ

代表 上利哲裕

我々メンバー7名は「表題」を活動スローガンに掲げカレッジ内で食品ロスを回収し、フードバンク関西を通じて、それを必要としている施設や団体に届ける活動を2年間継続して行ってきました。ようやく学生に毎月1日～10日の活動期間が定着し、毎回安定した量の食品を届けることが出来るようになってきました。

今後の課題は、カレッジ内に限らず他のグループや団体との連携で、イベントなどでのフードドライブ活動を活発化することです。まずは、フードドライブの認知度を高め市民権を得ることが我々の使命と位置付けています。



13) We love もったいない 代表 富川 修

今年4月、生環グループ学習のテーマ「古本募金をカレッジで」を実践するグループを立ち上げ、古着リサイクルを引継ぎました。学内2階に、フードバンクさんと共同運営の「もったいないコーナー」に古本と古着の回収ボックスを設置して、回収管理をしています。

古本は換金され、カレッジに募金、古着はNPO法人に寄附します。

古本は、これまでに約4千冊提供頂き、募金は5万円超えました。

課題は、各分野の広報活動の継続と活動領域の拡大です。



(本特集の編集：八木)